

「チフス」患者ハ發病後ノ菌排泄時期比較的遅シト認メラルヲ以テ此ノ排菌期以前ニ診斷ヲ確定スルコトハ實ニ本病豫防ノ要訣トスル所ナリ、當廳ニ於テハ後節豫防施設ノ項ニ述ブル如ク年々「アンブル」入膽汁培養基ヲ製造シ豫メ若干數ヲ開業醫家ニ配付シ置キテ、「チフス」ニ疑ハシキ患者ヲ診察シタルトキハ速ニ之ヲ利用スルヤウ勸說シツ、アリ、本年中當廳製造ノモノ竝他ノ病院等ニ於テ造レルモノヲ合シ膽汁培養基ニ據リテ診斷ヲ確定シタルモノハ總患者三千二百七十四名中實ニ千四百一名ノ多數ニ及ビ其ノ他屎尿ヲ検査シテ決定シタルモノ百八十六名、「ヂキダール」反應ヲ參照シテ決定シタルモノ四百二十四名、結局細菌學的決定ハ總患者ノ六一・四二%ニ及ビ臨床所見ノミヲ以テ決定シタルモノハ三八・五八%ニ過ギズシテ、臨床決定ハ逐年減少シツ、アリ。（第八表參照）

七、患者診定ノ時期及病床經過

【腸チフス】

(イ) 發病ヨリ初診迄

腸「チフス」罹患者ノ初メテ醫療ヲ受ケタル時期ヲ調査スルニ、治癒轉歸者ニアリテハ發病ヨリ第三病日迄ニ三四・九一%、發病ヨリ第七病日迄ニ六七・一二%ハ診療ヲ受ケ居リ平均初診日ハ六日三九ナリ、然ルニ死亡轉歸者ノ平均初診日ハ七日五一ニシテ前者ニ比シ一日強ノ遅延アリ、蓋シ受診時期ノ遅延ハ必然的ニ治病成績ニ影響アルベク、且又一般的情勢トシテ受診期ヲ遅クル、モ

ノ、内ニハ療養意ノ如クナラザル薄幸者ヲ多數包含セルコトモ其ノ一因タルベシ。

(ロ) 病名決定ノ時期

第七病日乃至第十病日ノ間ニ病名ヲ決定シタルモノ最モ多ク平均十日七五ニシテ、發病ヨリ第七病日以内ニ病名ヲ決定シタルモノ二四・七五%、發病ヨリ第十病日以内ニ決定シタルモノ漸ク五六・六三%ニ過ギズシテ、患者數ノ約半數ハ菌排泄期ニ入りテ病名ヲ診定セラル、狀況ニアリテ早期診定要望ノ意圖ニ猶添ハザル點アルハ遺憾ナリ。

(ハ) 發病ヨリ轉歸迄

治癒轉歸者ノ發病ヨリ治癒退院迄ノ經過期間ハ五十日前後ノモノ最モ多ク、平均日數ハ五十四日五八ナリ。

死亡轉歸者ハ第十一病日乃至第三十病日ノ間ニ死亡スルモノ最モ多ク、平均二十五日七〇ナリ。

（以上第十四表參照）

【バラチフス】

「バラチフス」患者ノ發病ヨリ治癒轉歸迄ノ期間ハ腸「チフス」ニ比シテ約十日ヲ短縮シ、平均四十三日三九ナリ、但シ死亡轉歸者ニ於テハ腸「チフス」ト殆ド差違ナシ。

尙「バラチフス」患者ノ初診及病名診定ノ時期ハ腸「チフス」ニ比シテ多少早キ傾アリ。（第十五表參

照)

八、死 亡 率

昨昭和八年ハ近年ニナキ死亡率ノ反騰ヲ見タルガ、本年ハ第九表ノ如ク下降シテ腸「チフス」患者ノ死亡率ハ一九・〇〇%ヲ示シ、「バラチフス」ハ五・五〇%ニシテ、腸「チフス」「バラチフス」合算ニ於テハ一六・六八%ナリ。

療養場所別ニ就テ觀ルトキハ第十表ノ二ノ如ク、依然官公立病院收容者ニ死亡率低ク私立病院收容竝自宅治療患者ニハ著シク高率ヲ示セリ、尙年齢別ニ於テハ前項記述ノ如ク幼年者ハ死亡率極メテ低ク、年長スルニ從ヒ著シク昂騰スルヲ常トセリ。

第十一表ノ地方別死亡率ニ就テハ「バラチフス」患者ノ含有割合ヲ一應斟酌シテ觀察スベキモノナルガ、大體ニ於テ患者發生率ノ低シトスル地方ニ死亡率高キ傾向アルハ豫防上遺憾トスル所ナリ。

九、其 ノ 他

患家ノ使用水ヲ調査スルニ第十二表ノ如シ、又一家ヨリ二名以上ノ患者ヲ發生シタルモノハ第十三表ノ如ク本年二百二十五戸、五百五十一名ニシテ總患者ノ一六・八三%ニ及ビ前年ニ比シテ其ノ割合著シク増加セルハ、本年特ニ爆發的流行ノ多カリシニ由ル。

◎ 八王子市ニ於ケル「バラチフス」ノ爆發事例

第一、流 行 狀 況

八王子市ニ於テハ大正中葉ノ頃腸「チフス」ノ流行熾烈ヲ極メ就中大正九年ノ如キハ人口萬對比四十三人以上ニ昇リテ全國都市ニ其ノ比ヲ見ザル狀況ナリシガ、大正十年ヨリ自宅療養ヲ禁止シテ發生患者ハ悉ク傳染病院ニ收容シ一面退院時ノ檢便ヲ勵行シタル結果爾來頓ニ患者ノ發生ヲ激減スルニ至リ、近年ニ於テハ腸「チフス」「バラチフス」ヲ合シ年々人口萬對發生數七人前後ニ止マリ極メテ平靜ノ狀態ニアリタリ。

而シテ本年ニ入リテモ右二病ハ一月ト六月ニ各一名ノ患者ヲ發生シタルニ過ギザリシニ、七月十五日突如二名ノ「バラチフス」(B型)患者決定ヲ事端トシ十九日ニ一名、同二十九日ニ至リテ俄然八名ヲ出シ尙且市街ノ中心地帯ニ二十三、四日以後ノ發病者夥シク介在セルノ狀アルヲ以テ檢病的戸口査察及開業醫師トノ連絡ニ努メタル處、八月ニ入リ連日簇發シ、殊ニ上旬ニハ毎日一〇名乃至二〇名ノ新患者ヲ算シタリシガ、漸ク中旬ニ入リテ小康ヲ得、二次感染者モ九月一日ヲ最終トシ患者合計一七一名ヲ算シテ終熄ヲ告ゲタリ。

常時ニ於ケル八王子市立傳染病院ノ收容定員ハ六〇床ニ過キザリシ爲、今回流行熾烈ヲ告グルヤ荒廢

ノ儘放置シアリタル舊病棟ヲ修復利用スルハ勿論新ニ病舎二棟ヲ急築シテ之ヲ補ヒ、最多收容記録一七二床(他ノ疾患ヲ合シ)ニ達シテ平常收容ノ三倍ニ及ビ一時ハ異常ノ混雜状態ニ陥レリ。今回ノ「バラチフス」發生ハ八王子市中稍地盤面低キ東北四半部ニ殆下限局シテ密集の流行ヲ爲セルモノニシテ、之ヲ町別ニ觀レバ本町ノ五三名ヲ首位トシテ八日町三三名、元横山町二八名、大横町一六名、小門町六名ニシテ人口一萬五千六百ヲ算スル此五ヶ町内ヨリ合計一三六名ノ患者ヲ出シ、其他ノ十七ヶ町ヨリ二九名ノ患者ヲ散發セリ、而シテ系統調査ノ結果右散發患者ノ二九名中一名ハ明瞭ニ前記五ヶ町ノ密集發生地ニ於テ病毒ヲ受ケタルモノニシテ又此外同系統ヲ以テ市外村落ニ派生セル患者六名アリテ合計一七一名ヲ算セリ。

第二、症狀及患者ニ關スル統計的觀察

一、診定方法ニ就テ

感染徑路ノ明瞭ナルモノ及同一家屋ヨリノ續發者、或ハ定型的症候アル者ニ就テハ臨床診斷ニ依リ成ルベク速ニ病名ヲ決定シ早期隔離ニ努メタルモノ、然ラザルモノニハ成ルベク細菌學的検査ヲ行ヒ以テ診斷ノ確立ヲ圖リタルガ何レモ「バラチフス」B型菌ヲ檢出シ、病原タル同菌ノ多量ガ一時ニ散布セラレタルニ由ル流行ナルコトヲ確認セリ。今各患者ノ診定種別ヲ掲グレバ左ノ如シ。

決定種別	患者數	備考
臍汁培養基利用 グキダール氏反應	五三	十四名中、本年腸「チフス」豫防注射ヲ受ケタルコトアル者七名アリ 尿中檢出ナシ
臨床決定	一四	
計	九六	
計	一七一	

尙右臨床決定者中、入院後病院ニ於テ細菌検査(主トシテ解熱後尿尿ヲ檢ス)ヲ行ヒ陽性ヲ見タルモノ左記五九名ニシテ結局殘三七名ハ收容中ノ検査ニ於テモ陽性ヲ見ズシテ終結セリ。

種別	患者數	備考
臍汁培養基利用 グキダール氏反應	一	尿ノミ陽性ノモノ七
尿	二	
計	五九	

二、潜伏期ノ考察

1. 神奈川縣津久井郡日連村、吉○源○(四六年)ハ腎臟炎ノ治療ノ爲ニ妻ウ○(四五年)ヲ同伴シ七月九日及十一日ノ二回鐵路來市シ、大横町多摩相互病院ノ診察ヲ受ケタルガ、其際市内ニ於テ飲食シタルコトアリ。而シテ源○ハ十五日多摩相互病院ニ入院シ、ウ○亦附添トシテ院内ニ起居シタルガ、何レモ十八日ヨリ發熱シ二十八日本病ト決定セリ。

- 2. 本町八、吉○良○方雇人神○富○(一九九)ハ七月十一日初メテ神奈川縣高座郡相原村ヨリ吉○方ニ來リ二十五日發病二十九日菌陽性決定セリ、尙右吉○方ニ於テハ主人良○ハ二十六日雇人馬○武○亦三十日發病シ何レモ本病ト決定セリ。
- 3. 元横山町四八、高○キ○(二二二)ハ東京市目黒區ニ長ラク出稼中ノ處七月十五日歸來シ二十六日發病八月三日菌陽性決定。
- 4. 南多摩郡多摩村大字連光寺萩○杉○郎(三九)ハ七月二十三日八王子市元横山町鎮座八雲神社(市ノ東半部ハ同神社ヲ氏神トス)ノ祭禮ニ際シ「囃方」トシテ來市、度々井戸水ヲ飲ミ、又本町五蕎麥屋龜屋事相○政○(同家ニハ保菌者一名發生シ又近隣ニ多數患者ヲ出セリ)方ニ於テ蕎麥ヲ食シテ二十四日歸村、二十八日發病八月二日菌陽性決定。
- 5. 家政學教師金○源○郎(二八)ハ八王子市及郡部ニ開催セラレタル講習會ノ講師トシテ七月十九日來市シ、市内南町ニ一戸ヲ構ヘタリシニ、二十八日ニ至リ發病シ八月三日菌陽性決定。
- 6. 本郷町四、淺○ト○(二六)ハ七月二十五日神奈川縣二宮町ヨリ淺○德○郎ノ許ニ入嫁、同夜結婚式ヲ舉ゲタリ、而シテ式後新婦及妹淺○千○(二三)男蝶ノ給仕タリシ八日町四三大○敏○(九)女蝶ノ給仕トナリシ小門町小○秀○(一二)ト共ニ龜屋(前記4ノ蕎麥屋)ヨリ取寄せタル蕎麥ヲ食シタルガ、敏○ハ八月二日、秀○ハ三日、ト○ハ四日、千○ハ五日發病シ何レモ「バラチフス」ト決定セリ、因ニ他ノ者ハ何レモ酒宴ノ爲蕎麥ヲ食セザリシト云フ。

以上ノ事實ヲ綜合スルトキハ、今回八王子市ニ於テ流行シタル「バラチラス」ノ潜伏期ハ最短六日ニシテ最モ長キモ十四日以内ナルベク思惟セラル。

三、年齢及性別

患者ノ年齢ヲ五歳級別ニ觀ルニ、左表ノ如ク六歳乃至十歳級並十六歳乃至二十歳級ノモノ最モ多ク患者數ノ六四%ハ二十歳以下ノ各級ヲ以テ占メ、壯老年ノ罹患者比較的少シ、蓋シ斯ノ如ク本病ノ一般統計ニ比シテ著シク若年者ノ罹患多キコトハ水系傳染ノ一特徴トモ目セラル、點ナリ。

性別ニハ男九二名ニ對シ女七九名ニシテ兩者ハ五三・八〇對四六・二〇ノ割合ナルガ管下一般患者ノ性別比例ニ對比シ女性ノ罹患者稍々多キ感アリ。

罹患者ノ年齢及性別

年 齡	患 者		計 數	總數ニ對スル 百分比		管内最近五ヶ年 患者ノ年齢比
	男	女		百 分	比	
五 歳 以 下	一一	七	一八	一〇・五三		三・九四
十 歳 以 下	二二	一六	三八	二二・二二		八・〇四
十五 歳 以 下	九	八	一七	九・九四		六・五七
二十 歳 以 下	二〇	一七	三七	二一・六四		一五・三六
二十五 歳 以 下	一三	一三	二六	一五・二〇		一七・七六
三十 歳 以 下	八	七	一五	八・七七		一四・二六

		三十五歳以下	三十	四	四・〇九	一〇・七三
		四十歳以下	二	三	二・九二	七・四五
		四十五歳以下	二	一	〇・五八	五・三八
		五十歳以下	二	一	一・七五	三・七九
		六十歳以下	二	二	一・一七	四・七一
		六十一歳以上	一	二	一・一七	二・〇二
計			九二	七九	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
性別百分比	男	五三・八〇	四六・二〇	一〇〇・〇〇		五六・九八
	女					四三・〇二

四、罹患者ノ症状及経過

今回流行ノ「バラチフス」ノ特有症状トシテハ胃腸症状ノ著明ナルモノ多カリシコト即チ嘔心、嘔吐、腹痛、下痢等ヲ來シ中ニハ粘液便又ハ粘液血便ヲ排泄シ赤痢ト誤診セラレタル者モアリタリ。熱發ハ頭痛惡寒ヲ以テ始マルモ戰慄ヲ伴ヒタルモノナシ、熱ハ三十九度乃至三十九度五分ニ急昇シタルモノ若干アリ、又前驅症状甚ダ輕微ニシテ發病ノ時期ヲ判然自覺セズト告白セル者比較的多カリキ、熱型ハ多ク弛張性ニシテ稽留型ノモノ稀ニアリ而シテ熱ノ持續ハ一週位ノモノ最モ多ク二週以内、三週以内ノモノ之ニ亞ギ四週ヲ超エシハ僅八例ニ過ギズ。脈ノ性狀ハ遲脈ニシテ舌苔ノ著シキ者ハ少カリキ、腹部ハ膨滿緊張シ、脾腫ヲ證明シタルハ十例、肝臓ノ腫大ヲ認メタルモノ六例アリ、又薺薇疹ハ僅三例ニ於テ見タルノミ。

腦神經症状ヲ呈シタルモノ六例、腸出血ヲ見タルモノ四例アリ、「デアッオ」反應陽性者ハ三〇%ニ及ベリ。

合併症トシテハ氣管支カタル最モ多ク之ニ次グハ脚氣、腹膜炎、肋膜炎、肺浸潤、肺炎、腎盂炎、膀胱カタル、腎臓炎其他ナリ。

要之、今回流行ノ「バラチフス」ハ症状輕クシテ死亡者ハ六名ヲ出シタルノミ、其他ハ併發症ノ爲多少轉歸ヲ遲延シタル者若干アリシモ、一般的ニハ順調ニ經過シテ約半數ハ發病ヨリ第五週迄ノ間ニ孰レモ治癒退院シ居リテ管内一般流行ノモノニ比シ其ノ經過日數ヲ著シク短縮シ居レリ。

五、死 亡 率

患者一七一名中死亡セルモノ六名(内五名ハ合併症ニ起因ス)此率三・五一%ニシテ警視廳管内ニ於ケル過去五ケ年間ノ本病平均死亡率ノ六・六四%ニ比シテ略半減セリ、蓋シ水系傳染ノ場合ハ常ニ輕症ナリトスル從來ノ經驗ニ合致セルモノト謂フベシ。

第三 傳 染 徑 路

今回ノ「バラチフス」ノ流行原因ニ就テハ水、食品、交通、保菌者等ノ諸方面ニ亘リ極力調査ヲ遂ゲタル結果「コロツケ」、「バン」、蕎麥等ニ共通攝食ヲ認ムル各數名ノ罹患者アリシモ何レモ本流行ノ大勢ニ關與スルニ足ラズ、而シテ今次流行ノ特異狀態ニ就テ檢討スルニ

1. 罹患者ノ發病日ヲ調査スルニ七月二十三日ヨリ發病者相踵ギ同三十日迄ノ一週間ニ六四名（内七月三十日ノ一八名、同二十八日ノ一四名ヲ尤トス）ヲ算シ、三十一日ヨリ八月六日ニ亘ル一週間ニ五六名乃チ此二週間ニ爆發性ニ一〇名ノ患者ヲ發生シタルガ、右ハ殆下二次的感染ヲ含マズ大體同一傳染源ニ因レリトスルヲ妥當トスルニ拘ラズ其ノ共通食品關係無シ。
2. 總患者一七一名中一家ヨリ患者七名ヲ出セルモノ一戸、同五名一戸、同四名六戸、同三名ノモノ七戸アリ、而シテ此内二次的感染ヲ疑ハシムルモノハ一家五名中ノ二名及一家四名ノ例中二戸四名アルノミニシテ他ハ悉ク相互同日又ハ二、三日以内ノ差ヲ以テ發病セリ、尙一家ヨリ二名ノ患者ヲ出セルモノ一七戸アリ是亦過半數ハ同時發病者ナリ、然ルニ以上ノ罹患者ヲ共通スル飲食品トシテハ水以外ニ該當スルモノ無シ。
3. 患家中水道ノミヲ使用セルモノハ殆下稀ニシテ水道、井戸共用者相當多キモ井戸水ノミヲ使用セルモノ最モ多數ヲ占メタリ。
4. 流行地ハ淺川ノ右岸ニ沿ヒ市ノ低地盤地域ヲ西ヨリ東ニ帶狀ヲ爲セリ、右地域ハ砂利ヲ以テ地層ヲ形成シ地下水ハ東又ハ東北方ニ向ケ流動シツ、アリ、其ノ水量極メテ豐富ナル特異狀態ヲ有ス。
5. 罹患者ノ症狀概シテ輕ク死亡率低シ。
6. 若年者殊ニ小兒ノ罹患者多シ。

以上ヲ綜合シテ案ズルニ罹患者中ニハ無論食物及看護等ニ因テ派生的ニ傳染シタルモノ若干アルモ本流行蔓延ノ主動機ハ七月上旬ニ發病セル患者（三名アリ）又ハ保菌者（今回流行地域ノ西上方、元本郷町ニ昭和三年以來排菌セル者一名、亦東寄リノ明神町ニ昭和七年以來排菌セル者一名アリ）或ハ他ニ隱レタル輕症患者ノ如キアリテ其ノ誰人カノ病毒ノ多量ガ何等カノ機會ニ下水ヨリ地下水ニ混入シテ八王子市特有ノ砂利層ヲ潜リテ四散シタルニ因ルモノト推斷セラル。

第四 豫 防 措 置

一、檢病的調査

八王子警察署ニ於テハ七月二十九日以來、日々當務員十名以上ヲ以テ檢病的調査ヲ施行スルノ外、流行期間中三回反復シテ全市一齊戸口査察ヲ行ヒタリ、之ニ依リ「バラチフス」患者ヲ發見シタル數九一名、外ニ赤痢疫病等ノ傳染病患者ヲ發見シタルモノ七名ニ達シタリ、右ハ直接患者ヲ摘發シタルニ止マラズ爾他ノ患者ニ就テモ開業醫師ノ届出ヲ慫慂シタル間接的效果亦少カラザリシモノト信ズ。

二、開業醫師トノ連絡

所轄警察署長ヨリ市内開業醫師ニ對シ防疫上ノ協力方ヲ依頼シ流行區域ノ市民ヲ診療スルコト多キ

醫師ニ對シテハ毎夕注意患者ノ有無ヲ電話照會シ、以テ流行ノ狀況ヲ察知スルノ資料ト爲シ併セテ醫師ノ決定届出ヲ慫慂セリ。

三、胆汁培養基ノ利用獎勵

開業醫師ニ對シテハ胆汁培養基ヲ配付シテ其ノ利用ヲ獎勵シ以テ早期診斷ヲ計リタリ、流行ノ初メヨリ九月十日迄ニ當應細菌検査所八王子出張所ニ受付ケタル血液加胆汁培養基ハ二二〇本ノ多キニ達シ之ニ依リ決定シタル患者ハ前掲ノ如ク五三名(總決定患者ノ三〇・九九%)ニ達シタリ。

四、豫防注射ノ勵行

當市ニ於テハ既ニ本年春季腸チフス豫防注射ヲ施行シアルモ、今回ノ「バラチフス」流行ニ稽ミ更ニ「バラチフス」豫防注射ヲ施行シタルガ、八月三十一日マデニ二回注射完了者三二、〇三九人ニ達シ外ニ一回注射ニテ中斷シタル者一、七一四人合計三三、七五三人ヲ算シテ全市人口五七、二〇九人ニ對シ實ニ五九%ニ普及セシメタリ。

五、豫防智識ノ普及啓發

- (1) 流行ノ當初市役所ヨリ「井戸水ハ危險、水道水ヲ使用セヨ」トノ「ポスター」ヲ市内要所ニ揭示ス。
- (2) 八月十日「ビラ」ヲ各戸ニ配布シテ流行狀況ヲ普ク市民ニ周知セシメ警告ヲ發シタリ。
- (3) 八月十四日豫防心得ノ要項ヲ記載シタル「ビラ」一萬五千枚ヲ各戸ニ配布セリ。

- (4) 八月六日ヨリ同二十日ノ間市内十一箇所ニ於テ講演會、活動寫真會ヲ開催シタルガ其ノ聽講人員一〇、三〇〇人ノ多キニ達シタリ。

六、井戸水ノ消毒

今回ノ流行地域ハ往昔淺川ノ河身ナリシト思料セラル、形跡アリテ地層砂利ヲ以テ形成シ、四米乃至七米ノ底位ニ相當ノ速度ヲ以テ多量ノ地底水流動シツ、アリ、水ハ肉眼的ニハ極メテ清澄ニシテ硬度弱シ、八月七日(平均氣溫二七・五度)測定シタル水溫ハ15.5°Cニシテ市營水道水ノ23.4°Cニ比シ甚ダ低シ、其ノ清冽ナル井水ハ自然市民ヲ魅了シテ上水道栓ヲ有スル家ニ在リテモ多ク井戸水ヲ併用スルノ風習アリ。

井戸ノ構造改善ニ就テハ先年來極力勸奨シタル處ニシテ爾後新鑿ノモノハ殆下打込式ニ爲セルモ在來ノモノニ猶開放井戸多數アリ、稀ニハ今尙釣瓶ヲ用フルモノアリテ流行地域(隣接地ヲ含ム)ニ尙此等不完全井戸數七〇四個ノ多キニ及ベリ。

今回蔓延ノ主原因ガ地下水ニ依リタルモノナルベク思料セラレタルヲ以テ特ニ「井戸水ノ持續的消毒」ニ力ヲ注ギ八月二日ヨリ防疫監吏二名ヲ專務トシ、町會、衛生組合、青年團等ノ役員ノ助力ニ依リ井水ノ「クロール」石灰消毒ヲ指導シ、各井戸毎ニ責任者ヲ定メテ之ヲ繼續實行セシメタリ、但シ地底水ノ流レ速キニ鑑ミ藥量ヲ普通ヨリ倍加シ又投入回數ヲ増加スル等之ガ徹底ニハ相等ノ苦心

ヲ拂ヘリ。

七、保菌者検索

今回ノ流行ノ傳染源ハ或ハ保菌者ニアラザルヤトノ懸念モアリ、又流行熾烈ヲ告グルヤ其ノ地域ガ砂利層ニシテ各家ノ井戸水ハ地下ニ於テ互ニ連通セル事實竝極力二次的感染ヲ防止スルノ必要上保菌者検索ニ力ヲ致シタルガ其ノ成績左表ノ如ク検索人員一〇、六九三人ニ達シ十六名ノ保菌者ヲ發見シ得タリ。

種別	檢索人員	發見保菌者
患者ノ家族及同居人	一、四六七	三
飲食物取扱業者及其家族	二、〇六七	七
流行地域居住者	七、一五九	六
計	一〇、六九三	一六

◎腸「チフス」保菌者ノ爲ニ一家八名ノ患者ヲ爆發セシ

メタル事例竝善後措置ニ就テ

一、患者發生ノ狀況

日本橋區通二丁目三番地和服仕立業小○松○方ニ於テ六月二十九日同家ノ徒弟笠○啓○ガ腸「チフス」ト決定本所病院ニ收容セラレタルガ、一方瀧野川區二、三〇一番地山○ト○モ同時ニ腸「チフス」ト決定豊島病院ニ收容セラレタルヲ以テ、之ガ系統ヲ調査シタルニ同人ハ前記小○松○方ノ徒弟ニシテ主人宅ニ於テ發病シタル後、生家ニ歸宅臥床シタルコト判明セリ仍テ更ニ小○方ノ家人ニ對シ嚴重ナル健康診斷ヲ行ヒタル處、角○ト○子外二名ハ多少ノ異和ヲ覺エツ、アリ、尙徒弟ニシテ父兄ノ許ニ歸宅セルモノヲ取調べ各住所ニ於テ檢診ヲ施行シタル結果、三十日ニ到リ左ノ通り六名腸「チフス」ト決定シ合計八名ノ發生ヲ見タリ。

發生患者名簿

戸主トノ關係	患者氏名	齡年	發病月日	決定月日	收容場所	豫防注射有無	備考
徒弟	笠○啓○	17	六月二十三日	六月二十九日	本所病院	有	
同	角○ト○子	18	六月二十七日	六月三十日	駒込病院	無	最近雇入ニ付豫防注射未施行
同	佐○シ○カ	17	六月二十七日	六月三十日	同	同	同
同	田○マ○エ	17	六月二十九日	六月三十日	同	有	
同	渡○シ○エ	17	六月二十八日	六月三十日	同	同	發病シ日本橋區茅場町二ノ二〇中○巳○治方ニテ臥床
同	山○ト○	20	六月十五日	六月二十九日	豊島病院	同	發病シ瀧野川二、三〇一山○玉○方ニテ臥床
同	小○キ○	17	六月二十三日	六月三十日	大久保病院	同	發病シ牛込區田町三ノ八小○春○方ニテ臥床

S	徒弟	椎	〇	ト	〇	21	發病後	千葉縣小見川町	椎	〇	米	〇	方	ニ	歸	リ	三十日	決定
---	----	---	---	---	---	----	-----	---------	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	----

右ノ外昭和八年ニ同家ヨリ左記一名ノ患者ヲ出シ居レリ。

徒弟	櫻	〇	正	〇	22	十月十三日	十月十八日	豐多摩病院	無	十二月十二日	退院
----	---	---	---	---	----	-------	-------	-------	---	--------	----

二、系統調査

以上ノ如ク同一家屋内ニ斯ク多數ノ患者ヲ發生シタル原由ニ就テハ極メテ明瞭ナル事實アリ、即チ同家ノ妻女マ〇(當四十五年)ハ嘗テ昭和六年ニ本病ヲ經過シタルモノナルガ、昨昭和八年十月十八日徒弟櫻〇正〇(當二十二年)ガ腸「チフス」ト決定シタルヲ以テ其ノ際家人ノ檢便ヲ行ヒタル處同月二十八日ニ至リマ〇ハ腸「チフス」保菌者ト決定シ爾來「傳染病豫防法施行規則」第十一條ニ基キ消毒方法ヲ遵守セシメ取締ヲ爲シツ、アリタルモノニシテ、炊事ニ携ハルコトヲ遠慮セシムベク常ニ諭示シ居リタルニ拘ラズ指示ニ遵ハザリシ爲、斯ノ如キ災厄ヲ招來シタルモノナリト認メラル。

三、小〇マ〇ノ病歴

保菌者小〇マ〇ハ昭和六年一月二十六日發病二月六日腸「チフス」ト決定、本所病院ニ入院、三月二十五日全治退院セルモノナルガ、本所病院ニ於テモ主要症狀消退後、菌排泄ハ認メラレズシテ全治シ、退院後警察署ニ於テ施行セル五回ノ檢便ニモ毎回陰性ニ畢リ、防疫職員ノ監視圈外ニ出デタルモノナリ。

然ルニ前記ノ如ク昨年十月櫻〇正〇ノ發病ニ關聯シテ保菌者タルコトヲ發見セラレ爾來取締ヲ爲シツツアリタルガ最近五月九日第二十一回目ノ檢便ニ於テ始メテ陰性ヲ呈シ、五月二十六日ハ陽性、六月十二日陰性、二十八日ニモ亦陰性ノ成績ヲ見タルニ俄然翌二十九日ニ到リ前記ノ如ク爆發的患者發生ヲ見タル次第ニシテ、罹患者ハ孰レモ該保菌者ヨリ病毒ヲ受ケタリト推斷スルノ外ニ系統ヲ有セズ、保菌者ノ細菌檢査成績ト實際排菌トハ必ズシモ一致セザルコトヲ證明シタルモノト言ヒ得ベシ。

四、保菌者取締ニ就テ

警視廳管下ニハ平常二百四五十名ノ腸「チフス」、「バラチフス」保菌者ヲ有セリ、之ガ取締ニ就テハ臨檢視察規程ニ依リテ警察官ニ視察取締ヲ行ハシムルノ外、少クモ防疫監吏ヲシテ檢査材料採取ヲ兼ね排菌一年以内ノ保菌者ニハ每週一回、同一年以上ノ保菌者ニハ二週ニ一回、同三年以上ノ保菌者ニ對シテハ三週ニ一回以上視察取締ヲ爲サシメ、一方家族ニハ毎年一回腸「チフス」豫防注射ヲ受ケシメツツアリ。

以上ノ取締方法ハ既ニ十年來之ヲ墨守セル所ナルガ、現ニ取締中ノ保菌者ノ家庭ヨリ患者ヲ發生セシメタル事例ハ絶エテ無カリシニ、稀有ニモ今回前記ノ如キ事例ヲ生ジタルヲ以テ之ガ取締ノ適否ヲ考察スルニ

(1) 發病者八名中、五名ハ昨年十月ニ豫防注射ヲ施行シ居レルモ、傳研製「ワクチン」第一回〇・五、第

二回一・二ニシテ、斯ノ如キ病毒爆彈ト稱セラル、保菌者ト同居セル者ニ對スル措置トシテハ注射分量不充分ナルノ憾アリ。

(2) 他ノ二名ハ最近ノ雇入レニ係リ未ダ豫防注射ヲ受ケザルモノナリ。

要スルニ右ハ保菌者ノ取締上ニ又家族ノ豫防措置上ニ不徹底ナル點アルヲ自認シタルヲ以テ今後ハ

(1) 保菌者毎ニ其ノ同居者ノ臺帳ヲ作製シ移動アル毎ニ加除訂正ヲ加ヘ、特ニ新ニ同居スルニ至リタル者ニハ必ズ迅速ニ豫防注射ヲ受ケシムルコト。

(2) 豫防注射分量ハ

「ワクチン」一c.c.中含菌量〇・三瓩ノモノハ三・〇c.c.、〇・五瓩ノモノナラバ二・〇c.c.(何レモ大人量)以上ヲ注射シオクコト。

等ヲ勵行スルコトニ改メタリ。

五、結 言

從來患者ノ爆發的發生ノ際、其ノ系統探查ニ於テ潜在シ居タル保菌者ガ周圍ニ病毒ヲ傳播シタリト斷定セラレタル事例多々アルモ、保菌者トシテ視察取締ヲ行ヘル間ニ斯ノ如ク病毒ヲ散播セシメタルコトハ洵ニ稀有ニシテ甚ダ遺憾トスル所ナリ。

蓋シ今次ノ如ク保菌者ガ主婦ニシテ而モ多數ノ家人ヲ擁シ狹隘ナル家屋内ニ炊事其他ノ家事ニ從事ス

ル場合、家人ニ對スル危險迫力ノ甚大ナルコトハ論ヲ俟タザル所ニシテ亦今次ノ悲慘事ヲ招來シタル所以タリ。

吾人職ヲ防疫ニ奉ズル者ハ此事例ニ稽ミ須ラク戒メテ内ニハ保菌者ノ視察取締ヲ刷新シ外ニハ保菌者各自ガ理解ノ下ニ能ク遵守事項ヲ恪守スル如ク誘掖シ以テ後人ニ覆轍ノ慘ヲ蒙ムルコトナキヤウ念慮シテ歇マザル次第ナリ。

◎豆腐屋ヨリ病毒ヲ散播シ腸「チフス」ヲ爆發セシメタ

ル事例 (二件)

第一例

一、流行概況

七月十七日東京市淀橋區角筈三丁目ニ突如二名ノ腸「チフス」患者診定セラレ、爾來附近ヨリ續々患者ヲ出シ、同町ト僅ニ一道路ヲ距テ、接續セル澁谷區幡ヶ谷本町二及三丁目ニモ波及シテ此區域ニ密集的流行ヲ極メ、八月十日マデニ合計四十一戸五十五名(内三名ハ管外轉出後決定)ノ患者ヲ發生セシメタリ。

二、傳染徑路

今回發生ノ患者ニ付個々ニ感染系統ヲ調査シタルニ當初十七日ヨリ二十一日マデニ決定シタル患者七名ハ何レモ屢々「冷奴豆腐」ヲ食シタル共通事實ヲ認メタルニ由リ其ノ買入先タル同町二三七番地染〇八〇八方ノ健康診斷ヲ施行シタルニ、同人妻ト〇(四十年)ガ六月十四日ヨリ發熱臥床シタル事實アリ本人ハ既ニ解熱シ居レルモ病歴ニ腸「チフス」ヲ經過シタル疑アルヲ以テ、直ニ検査材料ヲ採取シテ細菌検査ニ附シ、再度ノ検査ニ依リ二十四日ニ至リ漸ク尿中ニ「チフス」菌ヲ發見セリ、前記七名ノ患家ハ孰レモ同家製造ノ豆腐ヲ購入セルモノニシテ茲ニ爆發傳染源ヲ確メ得タル次第ナリ。前記染〇ト〇ハ二年前ヨリ「ロイマチス」ニ罹リ、臥床スル程度ニハアラザリシモ、榮養狀態不良ナリシト云フ、然ルニ本年六月十四日ヨリ發熱臥床、附近ノ醫師ニ診察ヲ受ケ、約十日間「肺結核」ナリトノ診斷ノ下ニ醫療ヲ受ケ居タルモノナリ。

三、續發患者ト「豆腐」トノ關係

今回ノ流行ニ依リ最初發生シタル患者ノ個々ニ付調査シタルニ少キモ一、二回多キハ十數回モ前記染〇八〇八方ノ豆腐ヲ「冷奴」トシテ食シタルモノナルヲ知り得タル他ニ概括的ニモ(1)患者ノ發生ガ何レモ淀橋區角筈三丁目、澁谷區幡ヶ谷本町二、三丁目ニ限レルコト(2)病症概シテ輕症ニシテ、水又ハ植物食ヲ介シタリト想像シ得ラル、等ニ稽ミ前記ニ系統スルモノト認メラル、尙今次ノ全患者

ノ傳染系統ヲ類別スルニ左ノ如シ。

- 染〇方ヨリ直接豆腐ヲ買入レタルモノ 二八
- 染〇方ヨリノ行商人ヨリ豆腐ヲ買入レタルモノ 一五
- 染〇方ニ於テ飲食シタルモノ 二
- 二次感染ト認ムルモノ 四
- 不詳 六
- 計 五五

四、患者ノ決定方法

患者五十五名中、他府縣ニ於テ決定シタルモノ三名ヲ除キ其決定方法ヲ種別スレバ左ノ如シ

種別	患者數	備考
膽汁培養基 グキダール氏反應 尿(尿ナシ) 臨床診斷	一八 一四 二 一八	何レモ六四〇倍以上ノ陽性ニシテ豫防注射ヲ受ケタルモノナシ
計	五二	外ニ管外ニ轉出シテ決定シタルモノ三名アリ

前記「臨床診斷」ニ依リタルモノニ對シ、傳染病院ニ收容シタル後細菌檢索ヲ施行シ、陽性ヲ見タルモノヲ類別セバ左ノ如シ。

種 類	患 者 數
膽汁培養基	一一
ヅキダール氏反應	六
尿	一
計	一八

以上ノ成績ヲ通覽スルトキハ本流行ノ患者ハ何レモ腸「チフス」ナリシコト確實ナリトス。

五、豫 防 措 置

(1) 檢病的調査

今回流行ノ地域ハ淀橋警察署管内(淀橋區角筈三丁目、十二社ノ一部)代々木警察署管内(澁谷區幡ヶ谷本町二、三丁目)ニシテ戸數一、四一八戸人口六、七七七人ニシテ、七月二十一日ヨリ八月十日マデ數回ニ亘リ檢病的調査ヲ施行シ、此結果直接一八名ノ本病患者ヲ發見シタルノミナラズ、開業醫師ノ届出ヲ德憑シタルノ效妙カラザルモノト認ム。

(2) 腸「チフス」豫防注射

流行地ノ町會ニ於テハ年中行事トシテ去ル四月ニ豫防注射ヲ行ヘルモ、注射會場稍遠カリシ爲カ施行者僅少ニシテ、不徹底ニ終結セシ跡アリテ今回罹患者中ニ於テモ僅ニ一名之ヲ受ケタルノミニシテ、他ハ何レモ豫防注射ヲ受ケ居ラズ、無論之ニ參加セザリシモノガ多ク罹患シタルハ必然

タリ、仍テ今回ノ流行ニ際シ更ニ豫防注射場ヲ開設シタルガ、左記ノ通り居住者ノ大部分ハ注射ヲ受クルニ至レリ。

居 住 人 員	四 月 施 行		今 回 施 行		計	
	完	了	完	了	完	了
六、七七七	完	了	完	了	完	了
七八四	完	了	完	了	完	了
一九〇	完	了	完	了	完	了
四、七六五	完	了	完	了	完	了
九七四	完	了	完	了	完	了
五、五四九	完	了	完	了	完	了
一、一六四	完	了	完	了	完	了

備考 四月ニ豫防注射ヲ受ケタル者ノ大部分ハ今回亦反復注射ヲ受ケタリ、未完了トハ第一回注射後中斷シタルモノヲ云フ。

(3) 井戸水ノ消毒

流行地域内ノ住民ハ多ク東京市水道ヲ引用シ居レルモ尙「開放式井戸」六八個アリ之ニ對シテハ特ニ「クロール」石灰ノ持續的消毒ヲ指導シ各井戸ニ消毒責任者ヲ定メテ、毎夕持續的消毒ヲ施行セシメタリ。

(4) 保菌者檢索

保菌者檢索ノ爲、患者ノ家族及同居人一八六八人、患家ト井水共用者一四六八人、流行地域ノ飲食物取扱業者四四人、計三七六八人ノ檢便ヲ施行シタルモ、何レモ陰性ニ畢レリ。

(5) 清潔方法及消毒方法ノ施行

流行地域及之ニ近接セル部落合セテ一、七〇五戸ニ對シ八月二、三日臨時清潔方法ヲ施行、又此區域ニ於ケル下水渠ノ延長六、九四一間ニ對シ一齊ニ浚渫ヲ行ハシメ、且ツ上記ノ下水、各戸ノ便池及塵埃箱ニ對シ石灰乳及「クレシン」ノ撒布ヲ施行セリ、之ニ要シタル消毒藥八五罐(一八珎入)ニ達シ居レリ。

第二例

四谷區花園町二六ニ豆腐製造販賣ヲ營メル一家アリ戸主ヲ池〇平〇ト稱シ妻文〇(二四年)及弟芳〇(二四年)ノ三名ノ家族ニテ營業シ、弟芳〇ハ毎日花園町、永住町、大番町、舟町及新宿一丁目ノ範圍ヲ行商シツ、アリタリ。尙同家ニハ此外二階ニ二名ノ同居人ヲ置ケリ、妻文〇ハ五月五日發病シ、同十六日初診ヲ受ケ、二十日細菌學的(膽汁)腸「チフス」ト決定セリ、此間患者ハ屋内ニ臥床シ戸主及弟ノ二名ニテ之ヲ看護ノ傍ヲ營業シツ、アリシガ遂ニ病毒ヲ商品ニ混ジ顧客間ヘ傳播スルニ至リ、附近ヨリ十四名ノ腸「チフス」患者ヲ發生セシメタリ。

右罹患者ハ孰レモ豆腐屋附近ノ居住者ニシテ同店ヨリ自ラ豆腐ヲ買ヒ來リテ食シタルモノニシテ弟芳〇ノ行商豆腐ヨリ傳播セリト認ムルモノハ發見セラレザリキ、恐ラク豆腐屋ノ使用水又ハ豆腐容器ガ病毒ニ汚染シ居タルコトニ端ヲ發セルモノト信ゼラル。

第一表 最近十箇年患者死者人口對比

年次	人口	患者發生實數		人口一萬對比		全國平均人口對比(對照)	
		腸「チフス」	「バラチフス」	患者	死者	患者	死者
大正十四年	四、三三三、四三二	五、六八一	四四四	一四・〇四	二・八〇	八・五二	一・六〇
昭和元年	四、五三六、四九五	五、二五七	五二二	一二・七三	二・四八	八・〇〇	一・五五
同二年	四、七七七、〇七七	三、九八六	四〇三	九・三〇	一・八三	六・八九	一・二八
同三年	四、九七六、七五九	四、一九九	四一五	九・一九	一・七八	七・五六	一・四〇
同四年	五、一七八、五七六	三、九四三	三三〇	八・三五	一・五七	六・六〇	一・二五
同五年	五、三三三、〇六〇	三、八三九	四七八	八・二三	一・四九	七・二三	一・二七
同六年	五、四九七、二九四	四、一四四	五九三	八・七二	一・五六	六・四八	一・二二
同七年	五、七五五、三〇三	三、二〇三	六〇六	六・六三	一・〇九	六・〇九	一・〇四
同八年	五、八九九、二八八	三、二七三	五〇五	六・四〇	一・二〇	六・五三	一・二三
同九年	六、〇九五、二六四	二、七二〇	五六四	五・三七	〇・九〇	六・〇九	一・一八

備考 本表人口ハ警察署調査ニ依ル各年末現在ナリ

第二表 患者發生區郡別

區郡名	昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年		昭和九年		計	
	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計
麹町區	七三	八五	五五	五九	六八	六七	三三	四三	二五	二八	二五七	二八七
神田區	一〇七	一二五	九四	一〇六	一八	六八	七六	四〇〇	五	四〇〇	四三三	四三三
日本橋區	一五	二五	二五	一〇六	九〇	八五	一〇	六九	六	六九	五三	五三
京橋區	九六	一〇八	八四	一〇九	二二	九〇	九	六三	八	六三	四三	四三
芝區	二二	二七	二二	二〇	二六	一五	二〇	七五	一五	八四	四六	四六
麻布區	二七	三三	一〇	二〇	二二	一七	二二	四〇	二七	四〇	三三	三三
赤坂區	九	一三	六	一九	三	六	九	二二	一	二二	四	四
四谷區	七〇	八三	九	一九	八	五	八	六〇	四	六〇	三三	三三
牛込區	一四	一五	二八	二八	二〇	七	二四	五九	七	六〇	四〇	四〇
小石川區	一五	二二	一五	一六	一七	二一	一〇	一三	一	一三	六	六
本郷區	二九	三五	一五	一七	二六	二七	二七	六八	二	六八	七六	七六
下谷區	一七	一八	一〇	一四	一六	一七	一〇	一七	一	一七	七	七
淺草區	一六	一七	一〇	一四	一六	一七	一〇	一七	一	一七	七	七
本所區	二〇	二四	一五	一七	一六	一七	一〇	一七	一	一七	七	七
深川區	一八	二六	二二	二九	一五	一六	一七	一〇	一	一七	八	八
計	一八	二六	二二	二九	一五	一六	一七	一〇	一	一七	八	八

三六(腸)

市	昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年		昭和九年		計	
	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計	腸チフス	計
品川區	一五〇	一六八	一四三	一八二	一三四	一九九	一九	二一	一〇	一一	六二七	七三七
目黒區	九〇	一〇三	九〇	一〇〇	九八	一二	〇	八七	九	八六	四三	五一〇
荏原區	七六	八四	九七	一〇八	六〇	七三	一四	五九	八	五九	四七	五五三
大森區	一三	二六	一三	一四	一八	一〇	一八	一八	一	一八	四七	五五三
蒲田區	六九	七五	七三	八三	五〇	六三	二一	二八	一	二八	四七	五五三
世田谷區	八六	九七	九三	一〇七	八九	一〇三	一五	一六	一	一六	四七	五五三
澁谷區	一七四	一九八	一七九	二〇六	一四〇	一六九	二二	二四	二	二四	七八七	九〇二
中野區	一三	一三	一四	一五	一四	一六	一四	一六	一	一六	四六	五三七
杉並區	八〇	九三	一〇四	一二三	一二三	一三六	一四	一六	一	一六	四六	五三七
豊島區	一八八	二〇八	一六五	一八七	一八六	二一四	二六	二九	一	二九	八二	九二七
荒川區	一七〇	一九九	一六四	一八七	一七四	二〇	二〇	二四	一	二四	八〇	九二七
板橋區	七四	九八	六四	七九	五五	六七	二〇	二四	一	二四	三三	三五四
足立區	六六	八二	五八	六九	五九	七二	二二	二六	一	二六	三三	三五四
向島區	四九	五七	四八	五九	四〇	五三	二二	二六	一	二六	三三	三五四
城東區	八	一五	三	四	一	二	一	二	一	二	三	三五四
葛飾區	二	三	一	二	一	二	一	二	一	二	三	三五四
計	一八	二六	二二	二九	一五	一六	一七	一〇	一	一七	八	八

三七(腸)

總計	島嶼	八王子市及郡部					計	江戸川區 (東京水七)
		計	西多摩郡	北多摩郡	南多摩郡	八王子市		
三、八三九	一	二八	四〇	五五	一四	一九	三、七二〇	九 五
四七八四、三七四、一九四	三	七六	四	一五	三九	一八	三九四、一九四、〇五六	一 五
五九三、四七、二〇三	四	二〇四	四四	七〇	五三	三七	四四〇、四九六、三、〇九八	九 五
六〇、三、八〇九、三、二七三	四	二二四	三三	七八	九	三	五八三、六二六、三、二三四	四 三
五〇五、三、七七八、二、七〇一	三	一五〇	一七〇	八三	一〇	二二	五八三、六二六、三、二三四	一 七
五四三、二、七四一、八、四三二	七	二八四	一七〇	八三	一〇	二二	五八三、六二六、三、二三四	五 四
五〇五、三、七七八、二、七〇一	一	一〇五	一九	六九	一〇	七	五八三、六二六、三、二三四	一〇 六
五四三、二、七四一、八、四三二	一	七六	五六	七	九	六	五八三、六二六、三、二三四	一 七
五〇五、三、七七八、二、七〇一	一	一八三	七五	七六	一九	一三	五八三、六二六、三、二三四	一〇 七
五四三、二、七四一、八、四三二	二	二二七	二二	九三	一〇	一四	五八三、六二六、三、二三四	四 四
五〇五、三、七七八、二、七〇一	一	六六	四	八	三	一〇	五八三、六二六、三、二三四	一 五
五四三、二、七四一、八、四三二	二	二〇三	六六	一〇〇	二二	二四	五八三、六二六、三、二三四	四 五
五〇五、三、七七八、二、七〇一	一	九二	一五	五五	二二	一〇	五八三、六二六、三、二三四	二 三〇
五四三、二、七四一、八、四三二	一	二二五	二六	五	一七	一六	五八三、六二六、三、二三四	一 五
五〇五、三、七七八、二、七〇一	一	三〇七	四二	六〇	二九	一七	五八三、六二六、三、二三四	三 五
五四三、二、七四一、八、四三二	一〇	七四	一七	三七	七〇	九三	五八三、六二六、三、二三四	二 四
五〇五、三、七七八、二、七〇一	七	四〇	二五	四二	六三	五三	五八三、六二六、三、二三四	二 三〇
五四三、二、七四一、八、四三二	一七	一、二二四	四二	四二	二二	一四	五八三、六二六、三、二三四	二 七

第三表 人口一萬二對スル患者發生區郡別 (腸「チフス」合算)

區郡名	昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年		昭和九年		平均	
	發生率	順位	發生率	順位	發生率	順位	發生率	順位	發生率	順位	發生率	順位
神田區	一六・三九	2	一一・元	8	二・四八	2	六・三〇	21	八・二五	3	一〇・四八	4
日本橋區	九・〇四	13	八・二四	21	六・三六	24	五・九四	23	五・一九	19	六・九三	19
芝區	一・六七	6	九・五七	17	八・〇六	14	六・三三	19	五・三九	16	八・一五	11
京橋區	八・四七	18	一〇・四〇	12	七・六七	16	七・元	12	五・九五	13	七・九三	15
麻布區	一三・九七	4	一一・五六	7	八・七四	8	八・三三	8	六・九七	7	九・八三	6
赤坂區	一七・二五	1	一三・七二	5	九・八六	5	九・四〇	3	一〇・九三	1	一一・〇四	3
四谷區	一一・二九	8	一三・五九	2	九・九七	4	七・九六	9	八・〇九	4	一〇・一五	5
牛込區	二・三三	5	一一・三三	9	九・三〇	6	九・一九	4	五・三二	17	九・五四	7
小石川區	八・六六	16	一一・〇五	10	七・五三	17	七・三〇	11	八・三八	2	八・六二	9
本郷區	一一・〇〇	7	一二・五九	6	一二・五二	1	一二・四四	1	六・六八	8	一一・一〇	2
下谷區	一一・〇〇	9	九・八一	15	七・一四	19	五・八四	25	六・三七	11	七・九	13
淺草區	七・四六	23	六・二〇	28	四・七二	29	六・六五	16	四・六七	24	五・九〇	25
本所區	五・四一	31	七・四二	26	六・五八	22	七・〇〇	14	五・二〇	18	六・三三	24
深川區	七・二四	24	一一・二九	3	八・〇九	13	一〇・一四	2	七・五〇	5	九・三	8

總計	島嶼	八王子市及郡部					(東京水上)	
		計	西多摩郡	北多摩郡	南多摩郡	八王子市		
八・二三	一・一六	五・二三	四・四八	四・三六	六・〇二	七・三三	五・一六	六・〇二
			3	4	2	1		29
八・七二	一・九六	六・九四	一七・二九	四・九七	一・一二	三・八五	二・九六	四・二九
			1	2	4	3		32
六・六三	—	四・三六	七・五六	三・三六	二・二三	二・三〇	五・九七	六・七六
			1	2	4	3		20
六・四〇	〇・五一	四・七四	六・六四	五・五二	一・四四	四・二〇	二・三五	四・三九
			1	2	4	3		31
五・三七	〇・二五	七・〇一	四・〇六	三・一七	三・一〇	三・〇九	二・二三	三・二三
			2	4	3	1		33
六・九	〇・七六	六・五〇	七・九八	四・四六	二・七六	九・八三	二・三〇	四・七九
			2	3	4	1		30

市															京				
葛飾區	城東區	向島區	足立區	板橋區	王子區	荒川區	瀧野川區	豐島區	杉並區	中野區	澁谷區	世田谷區	蒲田區	大森區	荏原區	目黒區	品川區		
二・〇五	六・三〇	三・二六	五・九一	五・〇六	七・八三	六・四六	五・三八	八・八六	八・〇六	六・二〇	八・六〇	九・三七	七・五一	七・五四	八・八七	六・五〇	九・六二	九・四八	
35	27	34	30	33	20	26	32	15	19	28	17	12	22	21	14	25	10	11	
二・三八	四・二七	三・四三	五・二七	五・三七	五・三三	一三・〇九	八・六三	七・六七	一〇・六九	七・三八	一〇・三三	九・六二	七・六〇	七・七五	九・三六	七・九六	八・六六	一〇・一四	
35	33	34	30	29	31	4	20	24	11	27	13	16	25	23	18	22	19	14	
二・〇二	四・五四	二・七八	四・四四	五・四六	三・六七	三・〇一	六・四三	八・四四	八・三〇	八・八二	七・八八	七・二五	六・六八	五・三五	五・六二	四・九四	八・七三	八・五五	
35	30	34	31	26	32	33	23	11	12	7	15	18	21	27	25	28	9	10	
二・〇九	四・六〇	三・八四	四・一六	六・四三	四・四六	四・〇六	七・七五	七・二六	八・三一	六・八九	六・四三	八・五三	五・五六	四・四四	五・八六	五・七九	六・三三	六・二二	
35	28	34	32	18	29	33	10	13	7	15	17	6	27	30	24	26	20	22	
二・六八	三・六三	二・九六	三・八六	五・一四	三・二八	三・四二	五・六一	五・〇四	四・三九	四・二〇	七・四八	六・三九	六・四六	四・五七	四・六九	三・八三	五・九九	五・六八	
35	30	34	28	20	32	31	15	21	26	27	6	10	9	25	23	29	12	14	
二・三五	四・六五	三・三五	四・六九	五・五〇	四・七七	五・九〇	六・七四	六・四三	七・七一	七・六七	八・〇九	八・二〇	六・六九	五・八〇	六・七二	五・七三	七・七三	七・九五	
35	33	34	32	29	31	26	20	18	17	23	12	10	22	27	21	28	16	14	

[illegible]

本所兩國	同 菊屋橋	同 藏前	同 日本堤	淺草象湯	同 谷中	同 坂本	下谷上野	同 駒込	本郷本富士	同 大塚	小石川富坂	同 早稻田	牛込神樂坂	四谷	同 青山	赤坂表町	同 六本木	麻布島居坂
元	四	二	二	三	二	四	三	三	四	四	五	三	二	五	三	三	二	二
六	三	二	一	三	三	八	六	二	六	五	八	三	四	四	一	四	二	二
四	三	二	二	三	三	四	四	二	六	五	六	三	三	五	三	三	一	三
一	三	一	一	一	一	三	一	四	四	四	一	一	一	二	一	一	一	二
四	三	二	二	三	三	五	四	二	六	五	六	三	三	六	三	三	一	二
八、一六九	六、四〇三	五、九五七	六、五、八〇六	七、四、一八三	二、一〇〇〇	九、二、四三四	七、三、三八一	五、九、三二四	八、〇〇九	五、六、八九一	八、八、七二六	五、九、二五九	六、五、三三〇	七、四、一八七	二、五、六六一	三、〇、一〇三	三、四、二四二	五、〇、二三八
五、一六	五、五七	四、五八	三、一九	四、七三	一〇、九五	五、一九	六、〇〇	四、二二	七、五〇	九、三三	七、二二	五、九二	四、七五	七、八二	八、九六	一二、五八	四、六七	四、五八

中	杉	巢	池	目	瀧	王	板	尾	南	三	日	千	寺	吾	葛	危	砂	小
野	並	鴨	袋	白	川	子	橋	久	住	島	里	住	島	燭	飾	戸	町	川
五七	六八	四二	二五	四三	五六	四七	六〇	二二	三三	一五	三三	五七	三三	三三	三三	二二	三二	三〇
一〇	九	四	三	一二	七	三	九	四	五	二	二	四	四	一	二	三	三	五
六七	七七	四五	二八	五三	六三	五〇	六九	二五	三六	一七	二四	六二	二六	二四	二七	二四	三四	三五
																		*
三	二	三	一	二	二	二	二	四	一	一	二	二	二	一	一	一	一	一
七〇	七九	四八	二九	五五	六三	五三	七二	二五	四〇	一八	二五	六三	二六	二七	二七	二五	三四	三五
一六六、六六三	一七九、八三五	一〇〇、〇〇八	七、六二一	九〇、三六二	一二、三六二	一五八、七三三	一三八、〇九〇	八五、五五九	六、七八八	九三、二五三	七七、二九五	一六三、三八五	八三、七八	九五、四四二	一〇〇、六七八	七、八六七	一〇一、〇〇九	一一、一六
四・〇三	四・二八	四・五〇	三・七七	五・八七	五・六二	三・一五	四・九九	二・九三	六・五五	一・八四	三・一〇	三・七三	三・一一	二・五二	二・六八	三・三四	三・三六	三・一二

[illegible]

四四(腸)

第五表 患者發生月別 (腸「チフス」合算)												
月次	年次											
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	計
昭和五年	三六六	三一七	二五九	二八〇	二九三	三一九	三三六	四二九	三八三	二七九	四〇二	四、三一七
昭和六年	六四六	三二一	二六一	二四九	三八七	三五二	四七一	四四四	四二一	四六五	三八七	四、七八七
昭和七年	三四五	三一〇	二二四	二〇七	三〇四	二五八	二七七	三三五	三三一	三二五	四四八	三、八〇九
昭和八年	二七五	一七八	一二九	一七八	三二三	三六五	三四二	四二二	三六三	三七四	四三五	三、七七八
昭和九年	二四五	二五三	一八八	一九六	二七六	二九二	三二四	四八一	二八九	二七二	二三八	三、二七四
計	5,355											
	一、八七七											
五ヶ年平均	一九、九六五											
	一〇〇・〇〇											
總數對百分比	26.82%											
	18.80%											
季節別	27.29%											
	27.09%											

合	島				部郡及市子王八						計	(東京水上)
	計	小笠原島	八丈島	新島	大島	計	五日市	青梅	田無	府中	町田	王子
二、六三二	一		一	一	一	九三	九	六	二五	三〇	三	一九
五九	一		一	一	一	二五	四	三	一	五	二	一八
三、一九〇	一		一	一	一	三〇七	一三	二八	二五	三五	五	二〇
八四	一		一	一	一	一						
三、二七四	一		一	一	一	三〇七	一三	二八	二五	三五	五	二〇
六、〇九五、二六四	三九、三三三	六、五九九	九、二九二	一三、七四七	九、六七五	四八、一一〇	三三、五六四	六七、三九六	六四、四五六	二四、八〇五	二二、四六七	二一、四三三
五・三	〇・三五	一・〇八				七・〇一	三・八七	四・一五	三・八八	二・八〇	二・一三	一・六二五

第六表ノ一 患者年齢性別

(腸「チフス」合算)

年齢別	患者			總數ニ對スル百分比		
	昭和九年		實數	昭和九年		至昭和九年
	男	女	計	男	女	計
五歳以下	七〇	六七	一三七	二・四	二・五	一・九三
十歳以下	二〇一	一四四	三四五	六・四	三・九	三・五〇
十五歳以下	一三三	一〇八	二四一	四・三	九・九	八・三〇
二十歳以下	二九	二〇五	二三四	一・四	七・三	六・七〇
二十五歳以下	二九	二〇五	二三四	一・四	七・三	一四・九一
三十歳以下	三九	二七	六六	九・八	八・六	一八・〇〇
三十五歳以下	一八三	一五	一九八	六・四	四・四	一〇・八二
四十歳以下	一四九	九四	二四三	四・四	三・二	七・五五
四十五歳以下	一〇一	六〇	一六一	三・一	二・一	五・三三
五十歳以下	七	四二	四九	二・三	一・四	三・七三
六十歳以下	九	八〇	八九	二・八	二・一	四・七五
六十一歳以上	三六	三	三九	一・〇	〇・九	一・九
計	一、八五四	一、四三〇	三、二七四	五六・七四	四三・二六	一〇〇・〇〇

第六表ノ二 死亡者年齢性別

(腸「チフス」合算)

年齢別	死亡者			患者百ニ對スル死亡率		
	昭和九年		實數	昭和九年		至昭和九年
	男	女	計	男	女	計
五歳以下	三	二	五	四・二	二・九	三・五〇
十歳以下	二二	九	三〇	五・四	七・三	六・一五
十五歳以下	一四	一四	二八	一〇・六	二・九	一・六七
二十歳以下	五	三七	四二	一三・九	一八・〇	一五・七〇
二十五歳以下	四	四七	五一	一四・七	一六・九	一五・八〇
三十歳以下	四	三三	三七	一八・四	一八・六	一八・七五
三十五歳以下	四二	二九	七一	二二・四	一八・八	一九・八四
四十歳以下	三	三三	三六	二二・八	三三・四	二〇・七
四十五歳以下	二	二二	二四	二二・七	二〇・〇	二二・五九
五十歳以下	二	五	七	一六・四	二二・〇	二四・八四
六十歳以下	二五	三	二八	二七・七	二八・七	三三・七
六十一歳以上	一三	一〇	二三	三三・三	三〇・三	三三・九
計	一〇三	二四	一二七	一六・六	一七・二	一七・四